

令和3年度 社会福祉法人八康会 事業報告

総 括

平成10年8月に特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、ケアハウス、在宅介護支援センターを開設した当法人は、その後ヘルパーステーションや居宅介護支援事業所などを開設し、久御山町内の中核的な施設として地域との関わりを深めながら事業運営を行ってきた。

令和元年度から取り組みをはじめた外国人技能実習制度の活用については、新型コロナウイルスの感染拡大による影響で、昨年度に引き続き、渡航できないためリモートによる面談を定期的に繰り返すなど行ってきた。この間に技能実習生は、日本語能力試験「N3」に合格しており、渡航が可能となった際、速やかに入国できるよう準備をすすめていたが、年度内の入国ができなかった。

新型コロナウイルス感染防止対策では、利用者や職員の命を守る取り組みを最優先課題として取り組みを継続している。また、令和4年3月にノロウイルス感染症の集団感染が発生したため、翌月の終息宣言後も感染症防止対策の取り組みを強化し徹底している。

以下、令和3年度事業計画における【重点項目】についての結果である。

(人材確保)

全国的にも介護関係での人材不足が大きな課題となっており、人材確保は喫緊の課題である。インターネットによる求人や人材紹介等を積極的に活用し、人材確保に努めた一方で、職員の離職防止を含めた対応にも重点的に取り組んだ。職員からの意見を聞き取り、ワークライフバランスに配慮した働きがいのある、魅力ある職場づくりに取り組んだ。コロナ禍における他業界の採用が減少したこともあり、新規の入職者確保が行えた。依然として、夜勤勤務者の体制・充実強化には課題が残っている。また、当法人は、安心して働ける職場であることを示す「きょうと福祉人材育成認証制度」の認証事業所であり、今後も職場の魅力向上と人材の育成及び定着に努めたい。

(利用者サービスの質の向上)

各事業所においては、コロナ禍における利用者の命、尊厳を守る行動、一人ひとりが楽しいと感じる暮らしと、健康で生きがいをもって日々の生活ができるように、利用者サービスの質の向上を図ることを第一に事業展開を図った。又、施設内虐待の未然防止に努め、法人全体の身体的拘束適正化委員会・虐待防止委員会を定期的に開催し、職員への全体研修などを通じて、組織をあげて再発防止及びサービスの質の向上に取り組んだ。

(危機管理システムの構築)

各種リスクマネジメント対策の強化や事業を継続的に実施するための取り組みを強化することが求められ、久御山町消防署の指導の下、消防総合訓練を実施し、普段からの自衛消防の緊急初期対応の強化や安全な避難誘導訓練を行った。令和3年12月に屋内駐車場における小火の発生以降も消防機器の点検など日ごろからの防火対策を強化し取り組みを行った。災害などの緊急事態に遭遇した場合に、被害を最小限にとどめて事業継続、早期復旧を行うことができるよう備えることが必要であり、小規模事業者とはいえ、事前準備対策や総合的な計画を策定することも引き続きの課題である。

(経営の安定化、ガバナンスの確立)

経営面では、各事業において稼働率低下が顕著にみられている。減収を食い止めるため、特別養護老人ホームにおける入院者数の減少には、一定の成果はみられたものの、退所者発生後の空床運用の進め方やショートステイの稼働率向上を始めとして、課題は残っている。とりわけ通所介護については、病院の医師や理学療法士、あん摩マッサージ師との連携・援助を受けながら、稼働率向上を目指したが目標に達しておらず、今後も重点課題として取組を強化する。

また、あらゆる分野において経費の削減を徹底することと併せ、目標稼働率の達成や収入増に向けた取り組みの強化が必須である。

(地域との連携、地域貢献事業の展開)

定例の久御山南病院との合同夏まつりをはじめとする地域との交流機会は中止となった。近隣の住民参加型の認知症講座を開設準備していたが、コロナ感染拡大のため中止となった。今後もコロナ禍においては、集合型ではなく出張型の事業を展開し、地域の活性化、つながりの構築に向けて、多様な関係機関、個人との連携・協働を進める必要性が高まっている。

職員が、地域とともに暮らすという意識を強くもち、地域のさまざまな課題を解決していくことが求められている。社会福祉事業だけではなく、制度外のニーズにも対応することなども期待されていることを認識し、久御山町社会福祉協議会や他サービス事業者などと連携しながら、さらに取り組みをすすめていきたい。

今後も、社会福祉法人の責務としての「地域における公益的な取り組み」を進め、地域に信頼される施設づくりを目指すことが重要である。

1 事務課

令和3年度は、事務課単独での事業計画において、課内の体制変更に伴う業務を整理し、ガバナンスの推進・強化を図ることができた。

安定した資金繰りの確保については、介護保険収入など収入面が伸び悩む中、勤怠システム導入や賃金規程見直し準備など委託業務費用が増加し、資金確保のため借入を行った。次年度は、収入面の改善を図り、安定した収入の確保と費用負担を有効に行うことで、安定した資金繰り確保に努める。

令和2年度より内部監査人による内部監査を施行しており、令和3年度については、2回の監査を施行し、第一次及び第二次ともに文書及び口頭指摘による改善を行い、ガバナンス強化や正確な会計処理に繋げることができた。

施設改修計画については、専門業者などの助言を頂き改修時期などについて検討していたが、令和3年度については、大規模な改修を行わず、経過を見て実行することとなった。小規模な改修については、随時施行し、安全に利用できる施設として維持できた。

働きやすい職場環境づくりについては、同一労働同一賃金対策として、就業規則及び賃金規程改正を行った。人事管理の面からは、勤怠システムなどの導入を行い、過度な労働時間抑制や労働生産性の向上を図ることができた。

2 特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）

定員60名

利用者一人一人に寄り添った介護の充実を図ることに重点を置き、個別処遇計画に基づく個別ケアを中心にサービス提供を行ってきた。職員の負担軽減を考慮しながら、毎月のリーダー会議やフロア会議の中で業務の見直し、改善を行い、利用者と共に過ごす時間の確保や個別ケアの充実に努めた。サービスの質の低下を招くことなく、一定の効果はみられたが、介護職員の業務負担軽減など離職防止への取り組みは継続中である。

職員の資質向上については、各委員会（事故防止、身体拘束廃止、サービス向上、感染症対策、褥瘡予防対策）の主催や法人研修企画委員会による苑内研修を定期的に行い、職員の自己研鑽への意識、資質向上に繋げることができた。今後も、継続しながら個々のサービス内容の見直しも進め、よりよいサービスの提供を行う。

(1) 施設利用状況

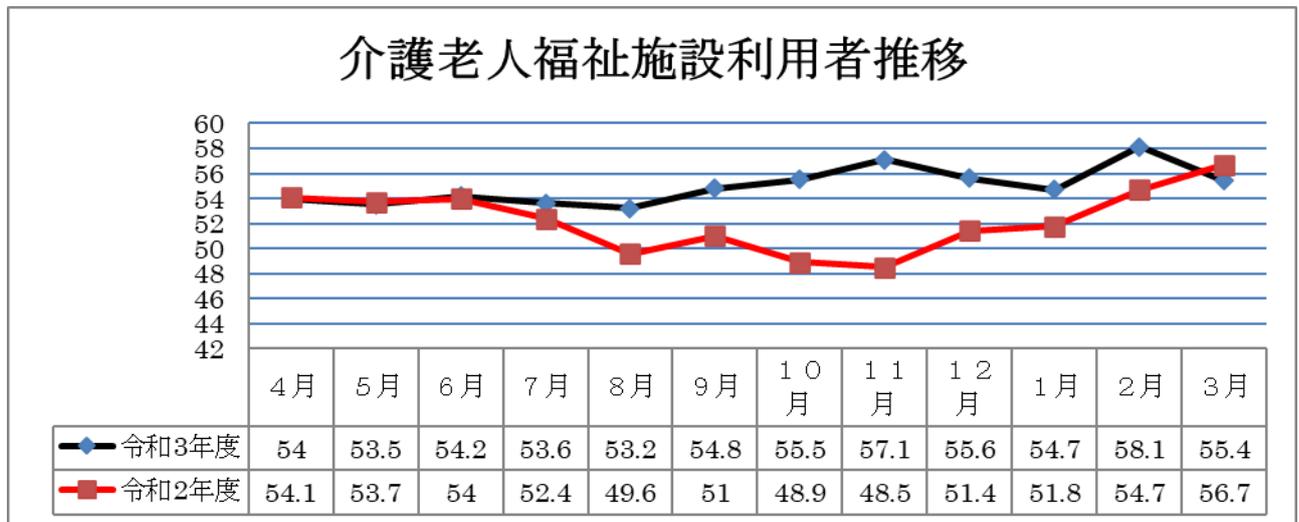
施設の利用状況は、表1のとおりである。令和3年度の年間延べ利用者数は、20,055人(前年比+997人)であり、外泊算定者を合わせた1日平均で54.9人(同+2.7人)、ベッド稼働率は91.6%(+4.6%)。平均要介護度は4.0であった(前年同様)。

入退所状況については、11月に5名の退所があったが、11月から2月にかけて、7名の入所と比較的スムーズな受け入れができた。入院日数については、嚥下リハビリの効果もあり、11月と12月は誤嚥性肺炎での入院者がなく、2か月平均で23.5日と入院日数減につなげることができたが、4月から10月は入院日数が100日を超えており、年間では1,321日(同+125日)と増加となった。令和4年度も引き続き、日常の健康管理や入退院時の医療との連携、誤嚥性肺炎のリスクを軽減し、入院日数のさらなる減少を図り、稼働率向上につなげていきたい。

表1 介護老人福祉施設の利用状況

特養		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
令和3年度	延利用者数	1620	1657	1626	1661	1649	1643	1721	1714	1723	1696	1627	1718	20,055
	稼働日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
	1日平均(人)	54.0	53.5	54.2	53.6	53.2	54.8	55.5	57.1	55.6	54.7	58.1	55.4	54.9
	入院日数	170	159	125	154	166	120	108	28	19	117	36	119	1,321
	稼働率%	90%	89%	90%	89%	89%	91%	93%	95%	93%	91%	97%	92%	92%
前年度1日平均(人)		54.1	53.7	54.0	52.4	49.6	51.0	48.9	48.5	51.4	51.8	54.7	56.7	52.2
入所者数		1	0	2	1	2	0	1	1	2	2	2	0	14
退所者数		1	1	2	1	2	0	0	5	1	0	0	2	15

図1 介護老人福祉施設の利用者数の推移



(2) 利用者の生活の状況

令和3年度の事業計画の重点項目「一人一人に寄り添った介護の充実を図る」に基づき、個別ケアの充実に取り組んだ。担当者会議等で個別処遇計画の見直しを行い、よりよい生活を送るために何が必要で何をすべきかということに重点を置いて、見直しを行った。

施設内の生活としては、昨年度に続き新型コロナウイルス感染拡大に伴い、苑外行事は中止となったが、苑内行事にて少しでも季節感を感じていただけるように、8月に夏祭り、10月には運動会、12月にクリスマス会、2月には節分お楽しみ会などが実施できたことは苑外へ出かけることができない中、利用者も非常に喜ばれていた様子であった。

年間行事

4月	お花見（近隣へ散歩）、おやつ作り（どら焼き）
5月	おやつ作り（餡子ボール）
6月	おやつ作り（みたらしいも）
7月	おやつ作り（たこ焼き）
8月	夏祭り
9月	敬老祝賀式、おやつ作り（フルーツサンド）
10月	運動会、ハロウィン仮装パーティー
11月	おやつ作り（たこ焼き）
12月	クリスマス会
1月	お正月遊び、おやつ作り（ベビーカステラ）
2月	節分お楽しみ会
3月	おやつ作り（カステラ）

表2 利用者の状況（R4.3.31現在）

<日常生活>

	自立	一部介助	全介助
食事	8	37	14
移乗	7	18	34
着脱	1	7	51
寝返り	10	18	31
入浴	0	5	54
排泄	3	13	43
移動	8	21	30

<要介護状況>

要介護1	0
要介護2	0
要介護3	15
要介護4	28
要介護5	16
要介護平均	4.0

	なし	歩行器等	車椅子
歩行補助具	2	2	55

<平均年齢>

	最高年齢	最低年齢	平均年齢
男	89	76	85.3
女	111	71	89.4
			88.8

	自立	トイレ介助	おむつ交換
排泄(昼)	4	25	30
排泄(夜)	4	13	42

	一般浴	座位浴	臥位浴
入浴種類	0	29	30

<性別、年齢及び入所期間>

区分	～1年未満	1年以上～ 3年未満	3年以上～ 5年未満	5年以上～ 10年未満	10年以上～ 15年未満	15年以上～
60～64歳 男						
60～64歳 女						
65～69歳 男						
65～69歳 女						
70～74歳 男						
70～74歳 女	1	2	1			
75～79歳 男	1		1			
75～79歳 女	1	1				
80～84歳 男	3	1				
80～84歳 女	1	2	1	2		
85～89歳 男		1	1	1		
85～89歳 女	2	6	2	6	1	1
90～94歳 男						
90～94歳 女		2		1		1
95～99歳 男						
95～99歳 女	1	6	2	5		
100～104歳 男						
100～104歳 女		1				
105～歳 男						
105～歳 女					1	
	10	22	8	15	2	2

<認知症高齢者の日常生活自立度>

区分	自立	I	Ⅱa	Ⅱb	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ	M	その他	合計
男	0	0	0	1	3	2	1	0	0	7
女	1	10	5	7	11	6	11	1	0	52

<障害高齢者の日常生活自立度>

区分	自立	J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2	その他	合計
男	0	0	0	1	2	0	3	1	0	0	7
女	2	0	0	6	8	6	20	4	6	0	52

(3) 健康管理について

定期的な健康管理として、毎年4月に一般健康診断を行っている。何か異常があれば追加検査を行い、嘱託医より家族に説明し、今後の治療方針を相談・決定している。

NST会議（栄養サポートチーム会議）を継続し、特養利用者60名の既往歴に基づいた追跡検査などを行い、健康管理をすることで再発など予防していくことを目的としている。

入院者数について、延べ28名（実人数25名）であり、入院病名として肺炎、気管支炎・骨折・酸素濃度低下、尿路感染など月平均3.3名入院している。退所者については、15名（入院中死亡者8名、施設内看取り対象者3名、長期間入院加療対象者3名、体調急変1名）であった。入院日数は前年と比べ増加し、100日を超える月が9ヶ月あり稼働率に影響が出ている。

感染対策としては、地域での感染症情報の収集、施設内の状況把握、感染症の知識を職員で共有するなど、感染症対策委員会を中心に行ってきた。新型コロナウイルス感染症については、職員の発症は数名あったが、入所者に発症者はなかった。しかし、3月に感染性胃腸炎の集団発生があった。初動対応の不十分さが集団発生につながった大きな要因である。初動対応や感染拡大防止対策の重要性について、感染症対策委員会の中で繰り返し話し合いの機会を持ち、今後の対

応などについて徹底を図った。今後も継続的な感染防止対策会議の実施や協力医療機関、行政など関係機関との連携を密に図り、感染予防の徹底に努めていきたい。

看取り介護について、毎月の看取り介護委員会の開催、指針の見直し点検や職員にむけての研修（苑外・苑内）を行った。令和3年度は、3名の看取り介護を行ったが、令和4年度もさらなる体制の構築に取り組んでいきたい。

(4) 栄養管理について

食事提供では、平均栄養基準と実績（カッコ内）は、熱量1559kcal/日(1603kcal/日)たんぱく質52g/日(68.8g/日)であった。利用者個々の身体状況、嗜好に配慮した食事提供ができ、嚥下・咀嚼機能や疾病状況の変化に、迅速な対応ができるよう給食委託業者と調整を行った。

厨房内の衛生管理については、委託業者内研修や情報提供などで、感染予防に努め対応できた。これからも衛生面や環境整備に取り組み、感染予防に努めていきたい。

栄養ケアマネジメントでは、個々の栄養管理について、久御山南病院との連携や多職種で構成される担当者会議において、食種の経緯・体重変化・血液データ・栄養状態のレベル、栄養ケアの経過報告などを基に今後の改善目標を設定し、一人一人の利用者の状況変化に対し、健康維持・疾病予防・栄養改善のための具体的な提供方法を検討し実施できた。又、摂食・嚥下障害対象者には、多職種による協働で口から食べる支援を経口維持計画を立て実施することで、さらに栄養管理を強化していくことができた。

<お誕生日食・行事食>

行事名	実施日	内容
4月お誕生日食	4月22日	寿司盛り合わせ
節句の日	5月5日	ちらし寿司、鯛の潮汁、柏餅
5月お誕生日食	5月18日	松花堂弁当(押し寿司、鱈の有馬焼き等)
6月お誕生日	6月17日	洋食ランチ(鯛のポワレもしくは煮込みハンバーグ)
7月行事食	7月7日	七夕そうめん
7月お誕生日食・土用の丑	7月28日	鰻重弁当
8月お誕生日会	8月21日	松花堂弁当(山椒ちりめんごはん、鱈の湯引き)
9月お誕生日会・敬老祝賀式	9月20日	お祝い膳(赤飯、鯛の塩焼き、天ぷら)
10月お誕生日会	10月26日	松花堂弁当(きのこごはん、豚ロースと舞茸の朴葉焼き)
11月お誕生日会	11月25日	寿司握り盛り合わせ
クリスマスパーティー	12月24日	クリスマスランチ
お正月	1月1,2,3日	お節料理(お雑煮、海老さより手綱等)
1月お誕生日会	1月26日	海鮮丼
節分の日	2月3日	巻き寿司、いなり寿司等
2月お誕生日会	2月22日	松花堂弁当(蟹と生姜の炊き込みご飯、刺身等)
お雛様の日	3月21日	五目ちらし寿司、炊き物(鯛の子、ふき)
3月お誕生日会	3月20日	すき焼き盛り合わせ

その他：選択食・おやつ作りなど月2回実施した。

食事内容(特養) R4. 3. 31現在 (人)

主食							副食						胃ろう
米飯	軟飯	全粥	おにぎり	パン	パン粥ペースト	パン粥ゼリー	L5(普通)	L5(一口大)	L4b(軟菜食)	L4a(ソフト食)	L3(ペースト食)	L2(ゼリー食)	
4	6	24	1	3	9	0	5	5	21	7	8	1	4

(入院利用者8名除く)

特別治療食

心臓食(塩分制限食)	脂質異常食	糖尿病食	膵臓・肝臓食	貧血食	腎臓食
12	1	4	0	0	1

3 ショートステイ(短期入所生活介護、介護予防短期入所生活介護)

定員10名

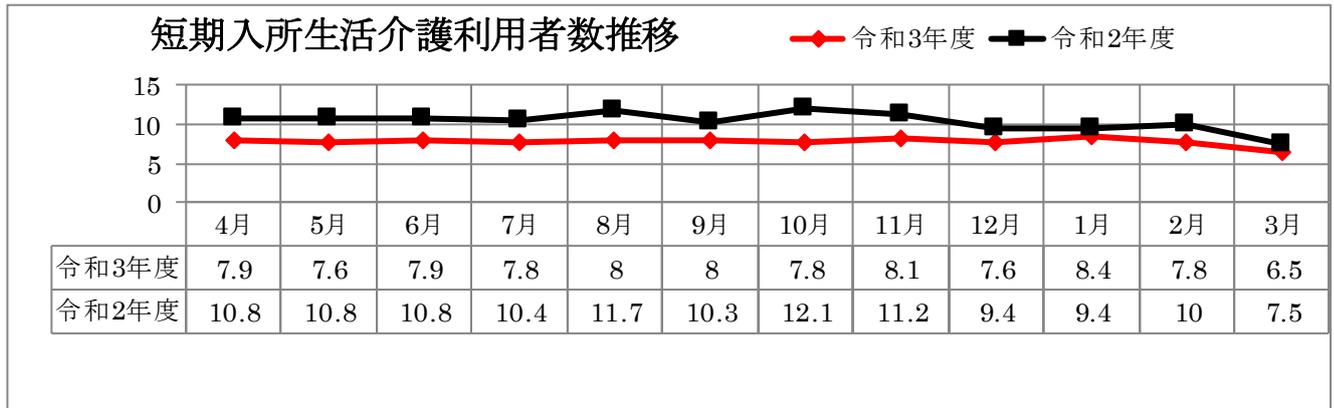
利用者数は、表3のとおりである。年間のベッド稼働率は77.9%(前年比-26.1%) 延べ利用者数は2,842人(同-994人)の方に利用していただいた。

稼働率に関して、町内に特養が開設された影響もあり、昨年度より大きく低下したため、今後もケアマネジャーに対しての働きかけや近隣市町村の居宅介護支援事業所および医療機関などへの利用者獲得の働きかけを続けながら、利用者数増加に繋げていきたい。

表3 短期入所生活介護利用者の状況

ショート		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
令和三年度	利用者数実績	237	235	238	242	249	240	243	243	237	260	217	201	2,842
	稼働日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
	1日平均(人)	7.9	7.6	7.9	7.8	8.0	8.0	7.8	8.1	7.6	8.4	7.8	6.5	7.8
	稼働率%	79%	76%	79%	78%	80%	80%	78%	81%	76%	84%	78%	65%	78%
前年度1日平均(人)		10.8	10.8	10.8	10.4	11.7	10.3	12.1	11.2	9.4	9.4	10.0	7.5	10.4

図2 短期入所生活介護利用者数の推移



4 デイサービスセンター（通所介護、第1号通所型サービス） 定員30名 （7～8時間：25名、3～4時間：5名）

(1) 利用状況

年間の利用者数は下表5のとおりである。

【7～8時間】

年間延べ利用者総数5,108人（前年比-280人）、1日当たりの平均利用者数は、年間平均で16.6人（前年比-1.2人）であった。このうち、通所型サービスの利用者は、年間で726人（前年比-173人）で総利用者数の14.2%であった。

【3～4時間】

年間延べ利用者総数163人（前年比+67人）、1日当たりの平均利用者数は、年間平均で0.5人（前年比+0.2人）であった。このうち、通所型サービスの利用者は、年間で7人（前年比-41人）で総利用者数の0.4%であった。

表4

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
【7～8時間デイ】														
令和3年度	延利用者数	462	460	456	442	426	450	462	454	383	354	372	387	5108人
	稼働日数	26	26	26	27	26	26	26	26	24	24	24	27	308日
	1日平均	17.8	17.7	17.5	16.4	16.4	17.3	17.8	17.5	16.0	14.8	15.5	14.3	16.6人
	稼働率(%)	71.0	70.7	70.1	65.5	65.5	69.2	71.1	69.9	64.0	59.0	62.0	57.3	66.3%
令和2年度		15	15.9	17.6	18.5	18.7	18.7	19	19.5	17.8	18	17.4	17.3	17.8人
【3～4時間デイ】														
令和3年度	延利用者数	4	8	10	10	11	10	10	12	11	16	25	36	163人
	稼働日数	25	23	26	25	25	24	26	24	24	23	23	26	294日
	1日平均	0.2	0.3	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.5	0.5	0.7	1.0	1.3	0.5人
	稼働率(%)	3.2	6.9	7.6	8.0	8.5	7.7	7.8	9.6	9.2	13.3	20.8	26.7	10.8%
令和2年度		0.5	0.3	0.5	0.4	0.4	0.5	0.4	0.3	0.1	0.1	0.1	0.1	0.3人

図3

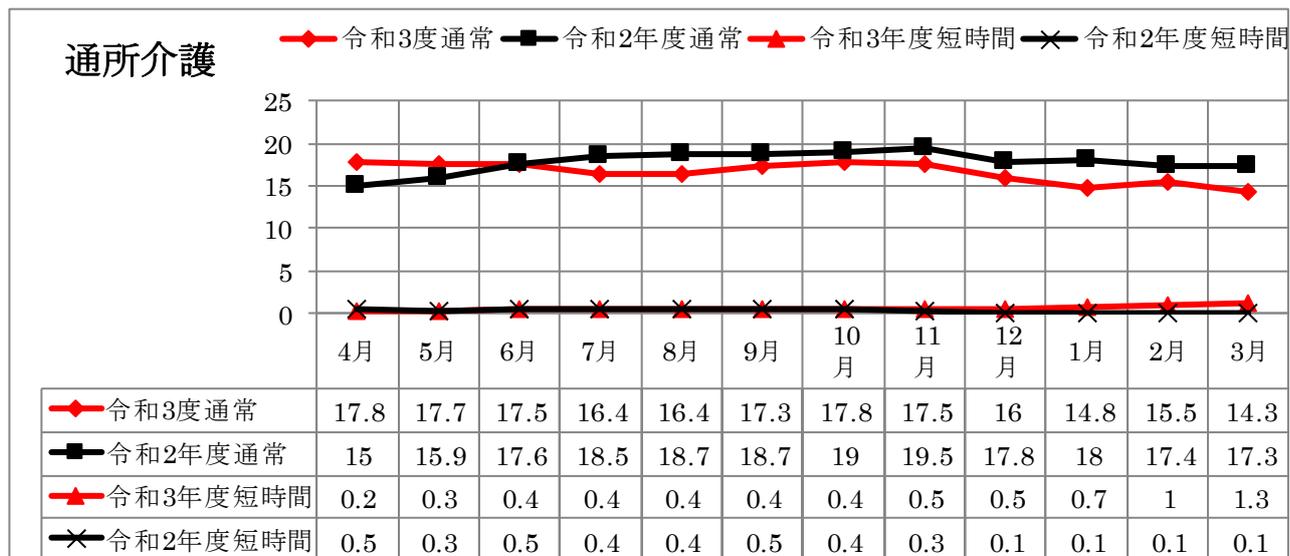


表5 利用者の状況

【年齢階層】

(R4.3.31現在)

	55～ 69歳	70～ 74歳	75～ 79歳	80～ 84歳	85～ 89歳	90～ 94歳	95～ 99歳	100歳～	平均 年齢
男性	0名	0名	4名	7名	6名	0名	1名	1名	85.1歳
女性	1名	1名	2名	9名	12名	12名	2名	0名	86.7歳
計	1名	1名	6名	16名	18名	12名	3名	1名	86.2歳

【介護度】

	事業 対象者	要 支 援 1	要 支 援 2	要 介 護 1	要 介 護 2	要 介 護 3	要 介 護 4	要 介 護 5	平均 介 護 度
男性	0名	0名	2名	2名	5名	8名	0名	2名	2.4
女性	0名	3名	5名	9名	9名	7名	6名	0名	2.0
計	0名	3名	7名	11名	14名	15名	6名	2名	2.2

【利用期間】

	1年 未 満	1年 以 上 3年 未 満	3年 以 上 5年 未 満	5年 以 上 7年 未 満	7年 以 上 10年 未 満	10年 以 上
男性	7名	4名	3名	1名	3名	1名
女性	7名	14名	6名	4名	5名	3名
計	14名	18名	9名	5名	8名	4名

【日常生活】

食事			排泄			入浴			着脱			移動						
自立	一部 介 助	全 介 助	自立	一部 介 助	全 介 助	一 般 浴	車 椅 子 浴	ス ト レ ッ チ ャ ー 浴	自立	一 部 介 助	全 介 助	独歩		杖・歩行器		車椅子		
												自立	一 部 介 助	自立	一 部 介 助	自立	一 部 介 助	全 介 助
51名	7名	0名	31名	23名	4名	37名	21名	0名	24名	29名	5名	14名	2名	5名	19名	1名	10名	7名

(2) 重点項目

令和3年度は、7つの重点項目を掲げた。

1) 稼働率の向上及び増収

サービス実施地域の拡充により新規利用者の獲得はできたが、入院や長期間の施設入所などによる利用中止の影響により、その空きを埋めることが出来なかった。また、お試し利用を積極的に受け入れたが、うまく利用に繋がらなかった。今後も地域包括支援センターや居宅介護支援事業所、関係機関との緊密な連携を継続し、利用者獲得に繋げていきたい。

2) 利用者、家族の立場に立ったケアの提供

外出行事は、昨年度に続き、新型コロナウイルス感染防止のためイオンでの買い物やみまきこども園での交流会など実施できず、代替え行事としておやつ作りや映画鑑賞を行った。毎月のサービス向上委員会の中で、満足度向上を図るため、言葉使いなど接遇面の質向上や虐待防止の取り組みを行った。

3) 機能訓練の充実

在宅での状態を確認しながら様々なメニューを準備し、訓練を行うことができた。又、生活機能向上連携加算の算定についても、協力病院の理学療法士との協議を重ね、訓練内容の検討や実施状況など評価を行うことができた。

AIによる歩行分析アプリ(トルト)を導入し、身体状況などの分析や評価が行えた。又、外部の音楽療法士と連携し、定期的に音楽療法を取り入れ、認知機能や嚥下機能の低下予防、能力向上などの評価が行えた。

4) 地域とのつながり

外出行事が行えず、民生児童委員やボランティア、介護サポーターの来苑も中止となった。新型コロナウイルス感染症の影響で音楽療法士の定期的な訪問も中断されるなど、予定通りには実施出来なかったが、利用者及び職員との交流の場を持つことができた。

5) 安心、安全なサービス提供

毎月の事故防止対策委員会において、ヒヤリハット事例などの検証を行うことができた。又、新型コロナウイルス感染症では、地域における感染拡大時期には、特に持ち込まない拡げない対策を継続し、日々の手洗い、うがい、消毒など感染予防対策を徹底することができた。

6) 職員の育成

定例会議や各種委員会（事故防止、サービス向上、感染症対策、身体拘束廃止）の中で、研修や勉強会を実施し、職員の資質向上やサービス向上の取り組みを行うことができた。

7) 共生型サービスの導入

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、導入するまでに至らなかった。今後も行政や町内障が

い支援事業所及び相談支援員などと連携を図り、共生型サービス導入に向けた取組を推進していく。

年間行事報告

4月	近隣散歩
5月	おやつ作り:クレープ
6月	おやつ作り:フレンチトースト
7月	おやつ作り:抹茶白玉あんみつ
8月	夏祭り
9月	おやつ作り:ベビーカステラ
10月	運動会
11月	紅葉見学
12月	クリスマス会
1月	新年会
2月	映画鑑賞
3月	おやつ作り:どらやき

5 ケアハウス

定員 15名

令和3年度は、入居利用者の心身の加齢に伴う虚弱化で、入退院を繰り返すなど新型コロナウイルスによる外出行事の中止など日常生活への影響が大きかった。年間を通じて要介護区分においても要介護3が4名となり、今後も更なる重度化傾向が進むことは予想される。また、医療機関へ延命処置や終末期医療について、文書で明確に意思表示をしている方が複数おられるのも特徴である。

(1) ケアハウス入退居状況

令和3年度は、退居者が5名（逝去2名、他3名）で入居者は4名であった。主な退居理由は、重度化に伴いケアハウスでの生活が難しく特養への入居や治療中の病気が悪化し急逝されたケースである。

(各月初定員：15名利用 年間180名利用)

表6 入居者の状況

年度末在籍者調べ以下同

<入居年数>

入居年数	～3年未満		3年～		6年～		9年～		12年以上		合計	
	2年度	3年度	2年度	3年度	2年度	3年度	2年度	3年度	2年度	3年度	2年度	3年度
入居者数	6	7	3	2	2	2			3	3	14	14
年度別全体比	32%	50%	20%	14%	13%	15%	0%	0%	20%	21%	93%	100%

<入居年数と介護度>

入居年数	～3年未満		3年～		6年～		9年～		12年以上		合計	
	2年度	3年度	2年度	3年度	2年度	3年度	2年度	3年度	2年度	3年度	2年度	3年度
自立											0	0
要支援1			1	1							1	1
要支援2	1								2	2	3	2
要介護1	3	3			1				1		5	3
要介護2	2	1	2	1		1				1	4	4
要介護3		3			1	1					1	4
要介護4											0	0
要介護5											0	0
合計	6	7	3	2	2	2	0	0	3	3	14	14
要介護2以上の割合	43%	50%	21%	14%	15%	15%	0%	0%	21%	21%		

<入居年数と年齢>

入居年数	～3年未満		3年～		6年～		9年～		12年以上		合計	
	2年度	3年度	2年度	3年度	2年度	3年度	2年度	3年度	2年度	3年度	2年度	3年度
60歳～84歳	2	2			1				1	1	4	3
85歳～89歳	1	3	1	1		1					2	5
90歳～94歳	2	1	2		1	1			1	1	6	3
95歳～	1	1		1					1	1	2	3
合計	6	7	3	2	2	2	0	0	3	3	14	14

(2) 利用者の所得階層 月別稼働率一覧

表7 サービス提供に要する費用

対象収入(年収)の所得階層区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2年度	3年度	個人徴収額
150万円以下	1	2	2	2										3%	3%	7,000円
		5	5	5	7	7	7	7	7	7	7	7	7	35%	46%	10,000円
150～160万円	2	1	1	1										7%	2%	13,000円
160万1円～170万円	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	9%	7%	16,000円
170万1円～180万円	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	19%	14%	19,000円
180万1円～190万円	5															22,000円
190万1円～200万円	6	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	5%	7%	25,000円
210万1円～220万円	8	1	1	1										5%	2%	35,000円
230万1円～240万円	10				1	1	1	1	1	1	1	1	1	5%	5%	45,000円
240万1円～250万円	11	1	1	1										5%	2%	50,000円
250万1円～280万円	12				1	1	1	1	1	1	1	1	1		5%	57,000円
280万1円～290万円	15															78,000円
290万1円～300万円	16													2%		85,000円
300万1円～310万円	17		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		6%	89,300円
310万1円以上	18	1												5%	1%	89,300円
	計	15	15	15	14	14	14	14	14	14	14	14	14	100%	100%	

(注) 1) 生活保護：1名

2) 月負担額は、サービス提供費用+生活費+居住費+水光熱費を含み11万円まで
が大半 (10,000～85,000) +44,810+28,000+水光熱費(平均5,000)

(3) 介護保険サービス利用者数

表8 実利用者数（年度末）

サービス内容	R2	R3
訪問介護	13	13
訪問看護	2	1
通所介護	7	8
福祉用具貸与	11	12
訪問リハビリ		2
居宅療養管理指導		3
在籍者数	14	14

表9 利用回数（年度末）

週		1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	合計（人）
訪問介護	R2	5	2	3		1		2	13
	R3	3	2	1				7	13
訪問看護	R2	1	1						2
	R3	1							1
通所介護	R2	2	3	1			1		7
	R3	1	2	5					8
訪問 リハビリ	R2								0
	R3	1	1						2

(4) 健康管理の実施

- (ア) 年1回の特定健診結果を各自で主治医へ報告。必要に応じ肺炎球菌の予防接種を受ける。
- (イ) インフルエンザの予防接種を行い、又、感染症防止のため手洗いの励行や消毒に努めた。
- (ウ) 食事摂取量の変化は、健康のバロメーターと考え、異常に摂取量が少ない日が継続しないか観察した。

(5) 避難訓練

水害対応訓練含め、年2回の全館避難訓練を実施した。うち1回は、夜間想定訓練を実施。その他、ケアハウス単独の避難訓練を1回実施した。

(6) 行事報告

新型コロナウイルスの関係で外出の自粛や行事などの中止もあり、計画通りの実施が出来なかった。入居者が、それぞれのやりたいことを継続でき、生きがいを持ち、楽しく日常生活を過ごして頂けるようにコミュニケーションをとりながら活動していけるよう各種の行事を実施した。

年間行事一覧表

年 月	主な行事内容
4 月	買物代行
5 月	買物代行・懇談会
6 月	買物代行
7 月	買物代行・懇談会
8 月	買物代行・ケアハウス単独避難訓練
9 月	買物代行・法人全体水害訓練・敬老行事・懇談会
10 月	買物代行・法人全体避難訓練
11 月	買物代行
12 月	買物代行・懇談会・インフルエンザ予防接種・クリスマス会
1 月	買物代行・懇談会
2 月	買物代行
3 月	買物代行・懇談会

6 ヘルパーステーション（訪問介護、訪問型サービス）

（1）利用状況

昨年度から続く新型コロナウイルス感染症による影響は少なく、順調に訪問支援することができた。訪問回数の増回（前年比+2,017回）や新規利用者も月平均3.5件であり、一定の新規利用者獲得に繋がった。

信頼できる事業所運営やケアマネジャーとの連携が図れ、利用者に安心して自宅での生活を継続していただける支援ができた。

訪問回数の増回については、ご利用者のADL低下などによる状態変化やコロナ禍による通院介助など突発的な依頼が多くあったことの影響が大きかった。

表10 ヘルパー派遣利用者数 (単位:名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用者数(介護)	64	72	79	65	73	77	70	70	71	67	71	67	846
利用者数(予防)	40	39	39	39	33	34	32	32	32	31	31	31	413
合計	104	111	118	104	106	111	102	102	103	98	102	98	1,259

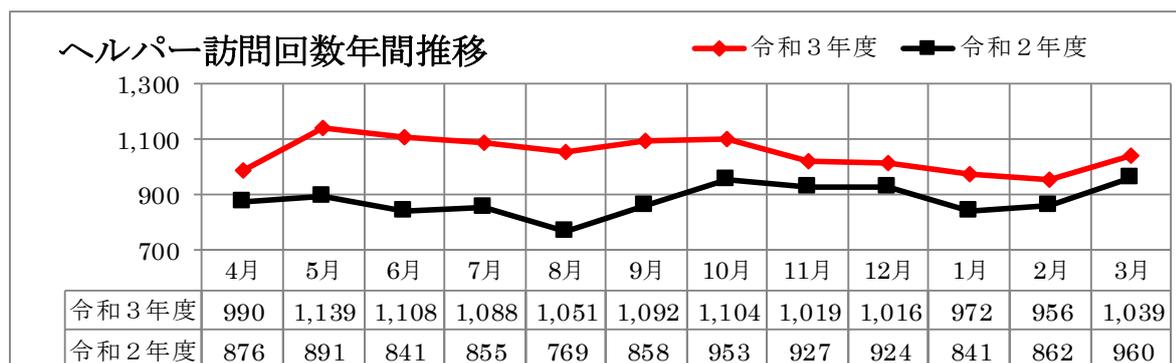
表11 ヘルパー訪問回数 (単位:回)

訪問回数	内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	身体介護	465	564	529	502	462	530	546	460	484	483	462	497	5,984
身体生活	118	159	176	174	171	155	165	158	134	124	125	135	1,794	
生活援助	407	416	403	412	418	407	393	401	398	365	369	407	4,796	
合計(回)		990	1,139	1,108	1,088	1,051	1,092	1,104	1,019	1,016	972	956	1,039	12,574

表12 ヘルパー訪問回数前年度比較 (単位:回)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和3年度	990	1,139	1,108	1,088	1,051	1,092	1,104	1,019	1,016	972	956	1,039	12,574
令和2年度	876	891	841	855	769	858	953	927	924	841	862	960	10,557
増減	114	248	267	233	282	234	151	92	92	131	94	79	2,017

図4 ヘルパー累計訪問回数



(2) 重点項目

個別サービスの向上については、在宅での看取り支援件数は少なかったが、すべての依頼に応じて対応することができた。また、訪問介護員による支援内容に差が生じないように、サービス提供手順書の内容を充実させ、共有を図ることで統一した支援を提供することができた。

職員体制の充実については、訪問介護員の高齢化もあり、稼働可能な時間が少なくなってきたため、サービス提供責任者の訪問回数が増回することで、サービス提供責任者の負担が顕著に大きくなった。その中でも長時間となる臨時の通院介助の訪問支援依頼が多く、訪問介護員の調整に時間を要するため、サービス提供責任者による訪問回数が大幅に増回する要因となった。

今後の課題として、訪問介護員の増員及び離職防止への取り組みを強化し、より安定した訪問支援が提供できる体制の構築が必要である。また、同居家族の支援など共生型サービス（特に障害福祉サービス）事業所として、支援が行えるよう取り組みを進めていく必要性が高まっている。

訪問介護員の研修については、新型コロナウイルス感染症の影響で、集合型ではなく個別対応で行ったため、訪問支援の時間への影響を少なくすることや内容の理解度なども把握しやすくなり、効果がみられた。今後も知識や実技の向上に繋がるよう、研修内容や取り組み方法を充実させ、全体のスキルアップを図っていききたい。

研修内容

日	時	事業所内研修	外部研修
4月	随時	緊急時対応(コロナ禍のため少人数での個別研修)	
5月	随時	認知症について(コロナ禍のため少人数での個別研修)	
6月	随時	食中毒について(コロナ禍のため少人数での個別研修)	
7月	随時	脱水・熱中症について(コロナ禍のため少人数での個別研修)	
8月	随時	法令遵守について(コロナ禍のため少人数での個別研修)	
9月	随時	レンジでの調理法について(コロナ禍のため少人数での個別研修)	
10月	随時	誤嚥性肺炎予防について(コロナ禍のため少人数での個別研修)	
11月	随時	感染症について(コロナ禍のため少人数での個別研修)	
12月	随時	ポジショニングについて(コロナ禍のため少人数での個別研修)	
1月	随時	接遇について(コロナ禍のため少人数での個別研修)	
2月	随時	KYT(危険予知トレーニング)について(コロナ禍のため少人数での個別研修)	
3月	随時	ヒヤリハットについて(コロナ禍のため少人数での個別研修)	

7 居宅介護支援事業所

(1) 利用状況

給付管理件数は、月134件を目標にしていたが、在宅復帰困難な入院や近隣市町村の介護老人保健施設や特別養護老人ホームへの入所者数が増加するなど月平均100件となり、目標に達することはできなかった。給付管理票提出件数は、1204件(前年比+86件)と増加。予防給付委託件数については、前年度と大きな変化はなく、月平均26件であった。

表13 ケアプラン作成実績

(単位:件)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和3年度	97	94	93	96	101	99	101	102	103	102	106	110	1,204
令和2年度	89	93	93	88	89	87	91	98	104	97	96	93	1,118

表14 要介護度別ケアプラン作成実績

(単位:件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計		
要介護1	令和3年度	21	20	20	19	20	20	21	22	22	21	24	23	253		
	令和2年度	15	15	16	15	14	12	16	19	24	21	21	17	205		
要介護2	令和3年度	35	36	34	36	38	38	37	35	36	39	41	42	447		
	令和2年度	33	34	34	33	33	34	33	35	37	38	33	37	414		
要介護3	令和3年度	31	28	29	29	30	29	30	31	32	30	28	33	360		
	令和2年度	28	30	30	29	33	32	31	31	34	28	32	30	368		
要介護4	令和3年度	4	4	4	7	9	8	9	9	8	7	8	7	84		
	令和2年度	7	8	7	5	3	3	3	4	2	3	3	2	50		
要介護5	令和3年度	6	6	6	5	4	4	4	5	5	5	5	5	60		
	令和2年度	6	6	6	6	6	6	8	9	7	7	7	7	81		
居宅介護支援 介護給付費別 (年間総数)		令和3年度		介護度 1~2			700			介護度 3~5			504		合計	1,204
		令和2年度		介護度 1~2			619			介護度 3~5			499		合計	1,118

図5 ケアプラン作成実績

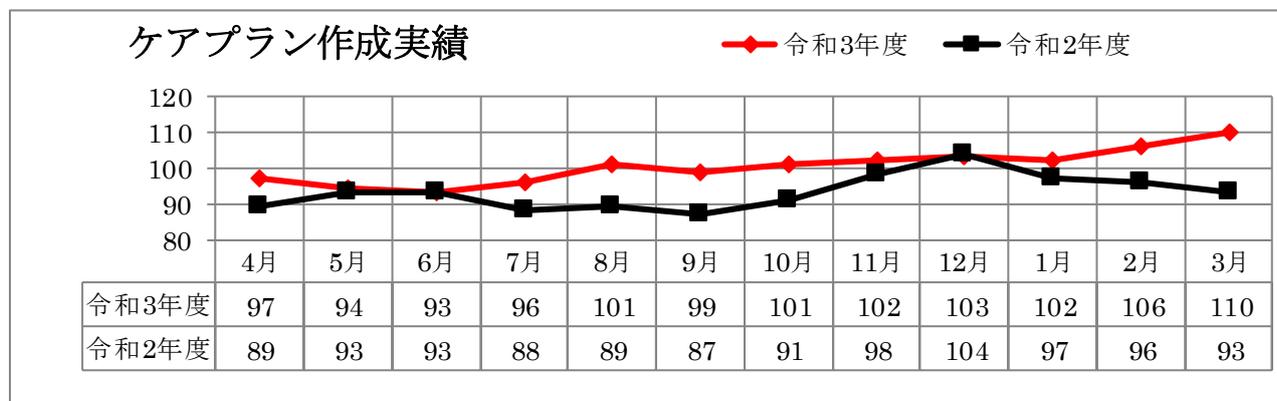
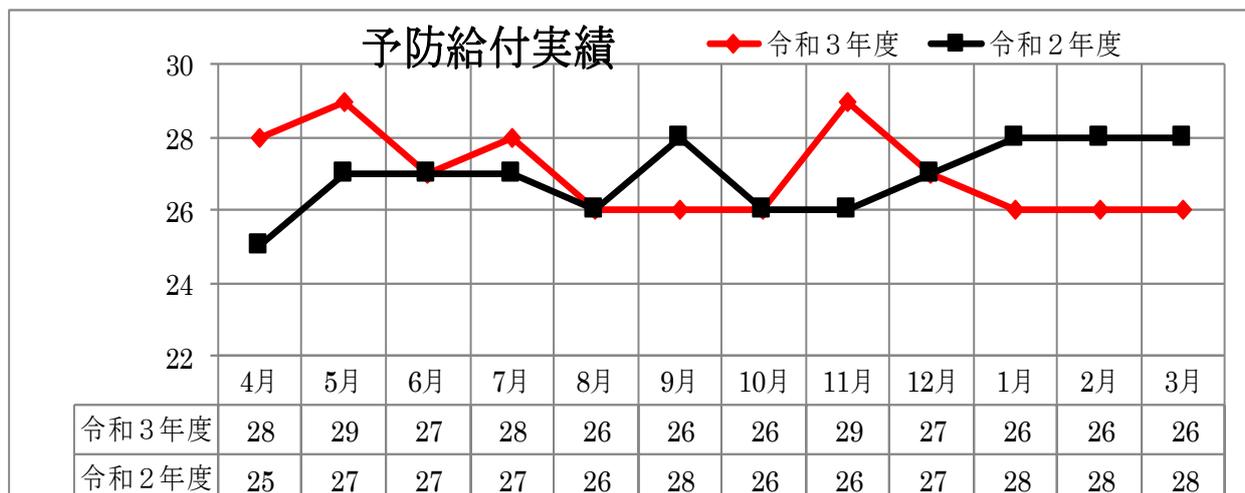


表15 予防給付(委託)実績

(単位:件)

		月												合計
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
要支援	令和3年度	28	29	27	28	26	26	26	29	27	26	26	26	324
	令和2年度	25	27	27	27	26	28	26	26	27	28	28	28	323

図6 予防給付実績



(2) 重点項目

新規利用者の獲得においては、宇治市を中心とする隣接市の事業所から依頼があり、積極的に対応を行うことで、1年間コンスタントな新規依頼件数（月平均5.4件）が獲得できた。

介護支援業務においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、自宅へ訪問できないことで、ご利用者の変化やこまめな状況把握が難しくなる状況であった。また、医療機関へ入院後、退院カンファレンスの開催やご家族も含め面会ができないことが生じ、不十分な状況把握のまま退院後の支援を行うことで、臨時の訪問や新たに導入した介護保険サービスなどの利用が落ち着くまでの期間が長くなるということがあった。

医療機関のひっ迫した状況から平時の退院支援が困難であったことは、今後も起こり得ると考えられ、これまで以上に連携を密に図り、ケアマネジャーからの積極的な情報収集が必要不可欠なものであると考える。

事業所内の定例会議を通し、事例の振り返り・確認を行うことができ、利用者の情報や支援内容を共有することができた。担当者のみならず、事業所全体で支援を行う体制を充実させることができた。今後も継続的に取り組んでいきたい。

課題としては、研修や事例検討など内容の充実を図り、地域や他職種との連携、質の高いケアマネジメントが実践できる取り組みを行っていく必要がある。

8 苦情発生一覧（全事業）

（1）発生件数と内容の内訳

発生部署	発生件数（件）				
	ケアの内容に関する苦情	個人の嗜好・選択に関する苦情	利用料に関する苦情	接遇に関する苦情	その他
特別養護老人ホーム	2	0	0	0	4
通所介護	1	0	0	0	0
ケアハウス	0	0	0	0	0
訪問介護	0	0	0	0	1
居宅介護支援	0	0	0	0	0

9 令和3年度 研修一覧

（1）施設外研修

特別養護老人ホーム・ケアハウス・デイサービスセンター・ヘルパーステーション

実施主体	研修名
京都府	高齢・障害施設のための新型コロナウイルス感染症対策研修 認知症介護実践リーダー研修 リーダー看護師等養成研修
京都府老人福祉施設協議会	総会・施設長研修会 京都府社会福祉法人経営者セミナー 運営管理職員研修
京都府地域包括ケア推進機構	介護施設における看取りケア研修
京都府社会福祉協議会	キャリアアップ研修（チームリーダー） 老人福祉施設における感染対策 OJTリーダー養成研修 アンガーマネジメント研修

	ハラスメント防止研修 外国人介護人材の受入れに係る研修
全国社会福祉法人経営者協議会	リスクマネジメント研修 役員・施設長等運営管理職員研修 会計実務者決算講座
京都府介護支援専門員会	令和3年度介護支援専門員実務者更新研修
京都府認知症総合センター	認知症と間違いやすい疾患 当事者の方から学ぶ 症状・神経心理からみる認知症の鑑別
京都府・京都労働局・職業安定所	改正女性活躍推進法・ハラスメント防止研修
久御山町	介護支援専門員研修会
久御山町社会福祉協議会	まちのお助け隊養成講座 認知症支援研修 絆見守りネットワーク全体研修会
久御山町地域包括支援センター	地域ケア会議
福祉経営研究機構	社会福祉法人の経営力強化
株式会社リコー	人事総務部門の紙に縛られない働き方
キャノンシステムアンドサポート株式会社	アフターコロナ必須の労務対策徹底
株式会社ルネサンス	今さら聞けないケアマネ営業の基本とケアマネ に選ばれる事業所とは

居宅介護支援事業所

実施主体	研修名
京都府介護支援専門員会	看取りサポートの人材養成研修 居宅介護支援の法令順守
宇治市サービス福祉公社	認知症カフェ運営者。スタッフ研修
久御山町地域包括支援センター	地域ケア会議
久御山町居宅介護支援事業所連絡会議	事例検討会
久御山町社会福祉協議会	生活支援体制整備事業研修

(2) 施設内研修

月 日	参加者数	内容 / 講師
4/19 (月)	21 名	外国人技能実習生とのコミュニケーション (日本語の伝え方) / 久御山南病院 澤田理学療法士 (JICA派遣歴あり)
6/21 (月)	15 名	身体拘束を考える / 大林ゆかり 副主任
7/26 (月)	23 名	感染症予防対策について / 感染症対策委員会
8/16 (月)	22 名	ハラスメントについて / 柴原裕美子 主任
10/18 (月)	27 名	介護ロボットの活用 / パラマウントベッド株式会社
11/15 (月)	27 名	高齢者虐待を考える / 山村大作 施設長
12/3 (月)	22 名	ポジショニング / 久御山南病院 澤田智子 理学療法士
3/28 (月)	40 名	法令遵守について / オンライン研修